

科目ナンバリング		U-LAS05 10004 LJ40									
授業科目名 <英訳>		生態人類学 I Ecological Anthropology I				担当者所属 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科		准教授 佐藤 宏樹 特定助教 塩谷 暁代 教授 山越 言	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	地域・文化(基礎)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)				
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	火2		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】											
生態人類学とは、自然環境と人間生活の相互関係を研究する人類学の一分野である。本講義では、担当教員たちの長期にわたるフィールドワークの経験をとおして、アフリカの熱帯乾燥林(佐藤)熱帯雨林とサバンナの境界域(塩谷)、熱帯の農村景観(山越)という異なった自然環境における生態・社会・文化の動態について論じる。											
【到達目標】											
人類の生活と生存について、その基盤から考える視点を得る。											
【授業計画と内容】											
第1回 熱帯林を科学する(佐藤) 第2回 森林破壊とその影響(佐藤) 第3回 熱帯林がもたらす恵み(佐藤) 第4回 熱帯林を護るしくみ(佐藤) 第5回 人と自然の共生をめざして(佐藤) 第6回 熱帯雨林の資源利用と保全(塩谷) 第7回 農村開発の現場(塩谷) 第8回 都市化の進展と農業(塩谷) 第9回 商業的農業と人びとの暮らし(塩谷) 第10回 熱帯における二次的植生の位置づけと重要性(山越) 第11回 熱帯農村における人-動物関係: 野生動物と里の動物(山越) 第12回 熱帯農村における人-動物関係: アニミズムと超自然的動物観(山越) 第13回 アフリカの自然保護区をめぐる諸問題: 自然とは何か(山越) 第14回 アフリカの自然保護区をめぐる諸問題: 誰のための自然か(山越) 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中に担当者3人が課すレポートによって評価します。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 高村泰雄・重田眞義(編)『アフリカ農業の諸問題』(京都大学学術出版会)ISBN:4876980543(アフリカ農業の可能性と課題について展望を得ることができる。) 重田眞義・伊谷樹一(編)『争わないための生業実践 生業資源と人びとの関わり』(京都大学学術出版会)ISBN:9784814000081(アフリカ各地の農村における生態資源と生業の変化、および人々											
生態人類学 I (2)へ続く											

生態人類学Ⅰ(2)

の共存の様態を描く。)

日本生態学会(編)『生態学と社会科学の接点』(共立出版)ISBN:9784320057425

Brandon K『Ecosystem Services from Tropical Forests: Review of Current Science.』(Center for Global Development Working Paper No. 380, Washington DC.)(<https://ssrn.com/abstract=2622749>)

伊谷樹一(編)『つくる・つかう(生態人類学は挑む SESSION 4)』(京都大学学術出版会)ISBN:9784814004416

山越言・目黒紀夫・佐藤哲(編)『アフリカ潜在力5 自然は誰のものか 住民参加型保全の逆説を乗り越える』(京都大学学術出版会)ISBN:9784814000098

(関連URL)

http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/africa_division/

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を聴いて興味を持った事項について、図書、論文、インターネットなどでみずから調べること。関連する図書や論文などの情報については講義中に適宜指示する。

[その他(オフィスアワー等)]

人類学、生態学、農学、環境科学、開発、環境保全、フィールドワークなどに関心をもっている学生諸君を対象とする。人類と環境との関わりについて深く考えようとする学生の受講を希望する。スライドやビデオを活用する予定。

[主要授業科目(学部・学科名)]